

ホーム名:グループホーム(ゆとり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>開設時に作ったものを、外部評価での指摘を受けて、簡潔でわかりやすいものに変えて、実践につなげている</p>	<p>「入居者の心と身体を大切に 入居者の尊厳を守ります」を理念に掲げ、玄関正面の壁に掲示している。常に寄り添うという気持ちを忘れず、気になることは都度メモを取り、職員同士で共有している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の高齢者の行事に招かれ、介護技術や体操、地域の社会資源について講義をする機会が与えられていた(コロナ禍でここ数年は自粛されている)</p>	<p>コロナ禍で中止にはなっているが、「高齢者食事会」には職員が出席し、認知症について説明することで地域の理解を得ている。また、現在は受け入れ困難だが、中学生のトライアルウィークを受け入れ、地域に開かれた事業所になるよう、地域とのつながりを大切にしている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げてきた認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>同一敷地にある診療所の患者・家族から、介護についての相談を持ちかけられることがあり、それに応えている</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>コロナ禍で外部からの参加を見合わせているが、開催時出た質問・意見については、議事録を作り閲覧している</p>	<p>コロナ禍で中止しているが、運営推進会議には市職員や自治会代表者も参加しており、ホームの状況を把握のうえ、意見をもらっている。議事録も適切に整備されている。</p>	<p>安易に中止とするのではなく、オンライン開催や書面開催など、直接介さずとも開催できる方法を模索し、運営に繋げていただきたい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に参加していただいていたが、このところ参加いただけていないが、それに変わるものとして「ホームの現況」を文書にまとめ、隔月に担当窓口へ届けている</p>	<p>毎月、2名の介護相談員が市から来訪され、入所者1人1人の意見を聞き取って報告いただける。入所者が職員に言いにくいことを把握できるだけでなく、入所者の気分転換にもなっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についてのスタッフの研修とともに、止むを得ず身体拘束を行わなくてはならないか、については、協力医療機関の医師・看護師などを交えて検討を行っている 玄関はコロナ禍による「換気」の必要もあるので、常時の施錠は行っていない</p>	<p>身体拘束をしないケアに務め、他施設で拘束が必要だった入居者も状況が改善した事例がある。現在、ベッドの4点柵を使用している入居者がいるが、家族ともよく相談し、ケアプラン変更時にも見直しを行っている。 身体拘束検討委員会も主治医や看護師の参加の元、適切に実施されている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員が集まって学ぶ機会を定期的に持っている</p>		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>今年度は大阪公立大学社会福祉学科の講師による「成年後見」の学習会に職員が外部研修に行っている。そこで得られたことなど共有している</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を説明し、不安のない形で入所に努めている</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各入所者には「担当者」を決め、お持ちいただくものや本人の様子について、ご家族と連絡を取ることとしている。面会時には挨拶をして、ご意見・要望を伝えていただける雰囲気作りにも努めている</p>	<p>入所者には「担当者」が日々寄り添っており、意見や気づきは即時にメモを取る習慣が根付いている。アンケート調査でもほとんどの家族に回答いただき、高評価をいただいている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員会議を行う前に、会議で話し合う議題やテーマについて、事前に「提案箱」を置き、募っている</p>	<p>職員会議を年に3,4回実施し、その都度、職員からの提案に基づいた議題を話し合っている。日常的に職員間で意見を述べ合える良好な関係作りができており、それが事業所の家庭的な雰囲気づくりに繋がっている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>現場での要望や意見(有給休暇の処理や急な病欠者、今年においては濃厚接触者の判断なども)は、管理者を通して意見をまとめ、代表者に伝え新たな指示を受けている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍でもスタッフの確保に苦労したこともあり、できなかった。協力医療機関の看護師による感染予防のための防護服の着脱の仕方、汚物の捨て方などの講義や指導を受けた</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>今年度はコロナ禍で、対外的な研修会なども開催されることはなかった</p>		

## Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談はご家族が来られることが多いが、その際に疑問や不安に思っていることを事前に伺う。また「体験利用」時に本人と対面し、心配に思っていることを聞いている。必ずしも納得していない入所もみられるが、不安や心配が解消できるように努めている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所にあたって現在の本人の生活を支え、見守っている家族はもちろん、ケアマネや入院先のソーシャルワーカーなどの意見も聴き取る。入院前に持っているであろう不安や要望を聴き取ることで、家族が感じているであろう気持ちの理解に努める</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームの施設の性格を理解されていないまま、入所申込をされる方もおられる。「寝たきり」「常時医療管理(点滴・経管)」「暴力行為」など共同生活を送っていただくことに支障があったり、他の施設(特養や介護型有料など)の方が適している場合は、相談の上他施設の紹介をする</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯物たたみ、野菜の皮むき、食器拭きなど、まだまだできることについてはお手伝いいただいている。入居者が一緒に取り組んでいると、会話も生まれいい雰囲気となる</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本来であれば家族さんの面会が十分ある中で、家族との関係を大切にしながらホームでの生活を送ってもらうべきである。コロナ禍によって面会制限が長期となり、マスクをつけ、ガラス越しでの面会となり、家族との関係は薄くなってきている</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会制限によって、面会が可能な時期であっても、ごく少数の家族の面会しかできない。昨年・今年の正月などの面会も少なく、従来からの関係が薄くなってしまっている</p>	<p>手紙や電話など、家族や知人とのコミュニケーションをとるための支援を行っている。地域に密着した事業所として、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けている。コロナ禍において面会の制限はあるが、挨拶や声掛けも徹底している。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士仲良く過ごしていただくべく、洗濯物たたみや野菜の皮むきなど複数の利用者「一緒に」取り組んでもらっている。ただ取り組むスピードも個々によって異なるので、担ってもらう役割も職員は考えている</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入所時に引継ぎをしたケアマネや地域包括のスタッフ、病院のソーシャルワーカーなどにも定期的に入所された方の様子の「報告」を行っている</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望や思いを聞き取ることが困難な方もおられる。入所前には本人の様子を家族やケアマネから聴き取り、本人の気持ちに沿えるように検討をする	日々のやり取りの中で思いや意向の把握に努めている。事業所から支給されているウエストポーチに職員全員がメモを入れ、気づいたことや得られた情報をすぐに書き留めるように徹底している。担当がカルテに書き写し、毎日全員が確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族からの情報はもちろんだが、入所直前までサービス提供を担っていたケアマネや医療ソーシャルワーカーからも情報提供を受ける。サービスを受けることについての、本人や家族などの様子を把握することに努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人から聞き取るが、聞き取れない場合はケアマネなどから聞き取る		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の利用者には担当を決め、家族との連絡の窓口となっている（担当者は一年交代。一年交代とすることでより多くのスタッフが家族と接点を持つことができる）家族から要望などがもたらされた際は、管理者・計画作成担当者などを含めて、ケース会議を開いて介護計画の見直しをすることがある	かかりつけ医・看護師・理学療法士の意見を取り入れて作成している。ケア会議を半年に1回開催し、介護計画をその都度見直している。	今、本人ができることは何かなど、言葉を掘り下げて具体的に記載するよう意識いただきたい。また、本人や家族から聞き取った想いをケアプランに言語化し、それに基づく目標と期間を設定してみてもどうか。それにより、自分たちを理解してもらえているという安心感に繋がると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、午前・午後・夜間各々の様子を4交替の職員が記入をし、申し送りに用いている。本人の状態以外に、医師・看護師からの指示、バイタルチェックも記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所中に家族の状態も変化し、買物（衣服の入れ替えなど）してくれる人がいなくなる方もおられた。化粧品・書籍・おやつなど家族が果たせない物品の調達、また専門医受診における介護タクシーの手配なども、行ってきた		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前本人の生活を支えていただいていた民生委員や近所の方などのインフォーマルな資源も活用していたが、コロナ禍となって以来できていない		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと同一敷地に有床診療所があり、そこの医師・看護師が定期的に訪問をしている。中には入所前にかかっていた別の病院に通われている方もおられる	隣接した協力医療機関と密接に連携をとり、週1回主治医の往診があるため、入居者や家族だけでなく職員の安心も得られている。外部機関へは家族同伴のもと通院し、情報共有を行っている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>発熱・嘔吐・腹痛を伴う便秘・胸痛などがあつた際、同一敷地にある有床診療所の看護師には日常的に相談のできる体勢となっている</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>毎年1～2人の入院がある 長期の入院によって「寝たきり」になる心配もあるので早期に退院ができるように、入院先と連絡をとっている また軽症であれば同一敷地の有床診療所に入院いただくこともあるが、その際は「離床」の意味も兼ねて、日中のみ「白馬」で過ごしていただくこともある</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>食事や水分が摂れなくなって衰弱される方、がんなどの疾患が見つかる方もおられた 施設では治療ができないので、医師より病気になるについて説明を家族には受けてもらった上で、別の病院に入院して「治療を続ける」かどうか、を判断してもらっている</p>	<p>看取りに関する考え方として、医療的処置が常時必要となった場合は、主治医の説明のもと他施設へ移ることとなっている。看取りを取り入れることも検討の上、敢えて「死を感じさせない住まい」を選択している。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>隣接している有床診療所の支援を受ける体制となっている 利用者の状態について、受診などの判断に迷う際は、診療所看護師(夜間も)の指示を仰ぐことがあり、また処置が必要な際は医師・看護師に依頼をしている</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難が必要な際は、隣接している診療所職員の応援を受ける体制ができている 避難は診療所の2階と決めている</p>	<p>クリニックの存在や、1週間分の備蓄により、安心した対応ができる。年2回の避難訓練も適切に実施できている。昨年は夜間想定も実施し、昼夜の対応の違いを職員間で認識できた。</p>	<p>特に夜間の災害については、職員個々の役割と経路の確認が重要である。消防や防災機器の企業などに協力を仰ぎ、避難方法などのアドバイスを受けてみてはどうか。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>共同作業やセルフケア(整容・更衣など)をしてもらう際、「指示」「命令」口調にならないように、毎回の職員会議で申し合わせている</p> <p>利用者の呼び方についても、失礼のない呼び方をするように申し合わせている</p>	<p>入居者の心と身体と尊厳を大切にするという理念が日々のケアに活かされている。</p> <p>入所者には親しみを込めて接するが、名前を下の名前や愛称で呼ばないように、敬意も示すことを心がけている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>一人での外出は認めていないが、「散歩に行きたい」「足がなまる」など歩行ができる方の声に応え、毎日1～2回少人数での散歩に出かけるようになった</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームの日課は毎日定まっているが、どうしても拒否をされる方については、対応するスタッフを変えるなど、本人の思いや希望を引出すようにしている また変更できるものは柔軟に対応している</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>更衣は自分服を選んでもらっているが、気候など適切ではない着衣である場合は居室に行き、スタッフが一緒にタンスの中を服を選ぶようにしている</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の皮むきやテーブル拭き、食器拭きなどお手伝いのできる方にはお願いをしている スタッフがお手伝いをお願いすると、快く受けて下さる方が多くなっている</p>	<p>オーナーが育てている野菜を使った手作りの食事を提供している。調理過程でも、食材を大切に匂いなども感じ取れるよう心掛けている。</p> <p>食事の際には、通常は職員も家族のように一緒に食べ、食事に集中できる環境づくりを徹底している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>疾患により食事制限・水分制限のある方、嚥下障害があり普通食の摂取が困難な方もおられる 病気や咀嚼能力、また本人の食事量(食べきれぬ量)によって配膳・メニューを変えている</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>半分くらいは義歯使用、半分くらいは自分の歯で食べられている 毎食後うがいまたは歯磨きを行っているが、みがき残しなどで口臭がきつい方もおられる 歯科医・歯科衛生士の訪問も受けているので、対応を教わっている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>立位が取れる方には、日中はおむつを使わずトイレに誘導をしている 尿意便意の乏しい方には、定時誘導を行い数分便座に座ってもらうことで、排尿排便ができるように見守っている 夜間については安眠や夜勤者のみの介助(一人介助)が危険でもあり、おむつを使っている方もおられる</p>	<p>入所者の状態に応じ、リハビリやパットを使ったり、トイレ誘導の仕方を決めたりして、皆で共有し介助している。毎回の便チェックも行き、体調管理に努めている。</p> <p>トイレにはカーテンを付け、ケアの際にもプライバシーが確保されるよう配慮している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便の状況については記録を行い、あらかじめ協力医療機関の医師から指示を受けたうえで緩下剤を投与している それでも十分な排便がみられない場合は、協力医療機関に浣腸をお願いしている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことのできる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一般浴については週3回行っている 浴槽をまたげない方については、同一敷地にある診療所の機械浴をお借りして、安全に入浴いただいている</p>	<p>週3回、午後からの入浴である。浴槽は段になっており、腰を掛けながらゆったりと湯に浸かる事が出来る。</p> <p>3分の1以上の入所者が隣接クリニックで機械浴を利用しているが、機械浴であっても週2回の入浴が確保されている。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>離床をしてもらうことが基本にあるが、長時間座位をとることが困難な方については、「午後から」「おやつ時から」「随時」など個々に臥床してもらっている</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>本人が服用している薬は調剤薬局から届いている薬剤情報を個々の記録と一緒に綴じている 処方に変更があった際は、変更点を記録に書いてスタッフに周知している</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>読書やパズル、クイズなど自宅での趣味がある方は持ち込まれている 屋外に出ることがほとんどなく、歌・塗り絵・貼り絵など提供できることは少ないが、初めて取り組んだ方の中には喜んでいただいている方もおられる</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるよう支援している</p>	<p>コロナ禍により昨年・今年と外食などの行事、家族との外出(通院は可)は中止している 完全に落ち着いた時点で以前のような外出(行事として、また家族との外出として)機会を設けていきたい</p>	<p>歩く機会を大切に、毎日朝と昼の2回、希望者を募って近所を散歩している。散歩に行けない入所者とも、駐車場や玄関前で外気浴をしながら歌を歌ったりしている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>原則金銭の持込は認めていない ただ持っていないと落ち着かない方にはホームが預かり、本人の希望するもの(ハガキなど)をスタッフが買物に行っている例はある その他の方は欲しいものについては、家族に伝えるか、スタッフが代わりに買物をしている化粧品を希望される方が多い</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>回線制限をしている分、電話については制限をしていないので、本人からかけたり、家族からかかってくる方もおられる 手紙をかかれ、スタッフが投函している例もある</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地よく過ごしてもらえるように、明るさ・室温などを意識している トイレについては自動消灯としている</p>	<p>高い吹き抜けから日差しがよく入るため、事業所全体が明るく感じられ、室温も保たれている。定期的な換気を行い、掃除は入所者と一緒に行っている。毎月季節の絵を描き、ぬり絵や貼り絵をみんなで作り、飾っている。入所者が家庭的な「自分の居場所」を認識できるような雰囲気づくりを行っている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>「一人」になる場所は居室以外にないが、ホーム内を歩きまわっている方はおられる 屋内でも歩き、隣のユニットの方と話をすることで満足をされている方もおられる</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>転倒の危険がなければ「持込」は認めている 自宅にあったテレビ、仏壇、写真立て、造花など持ち込まれている</p>	<p>居室の大きな窓からは、山や空が見え、季節や天気を感じることができる。利用者や家族の希望に合わせて、自宅で使用していた馴染みの物等を持ち込んでもらい、家庭的な第2の住まいとして意識いただけるように支援している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分の部屋やトイレの場所がわからない方もおられる 利用者の様子を見て声かけをしている</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない



